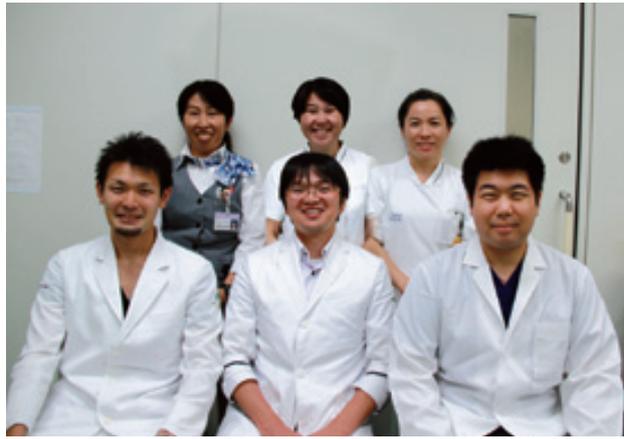


診療最前線

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科は、耳、鼻、のどを中心幅広い分野の疾患を取り扱います。今回は当科で特に力を入れている分野についてご紹介いたします。

■補聴器

補聴器にはたくさんの種類があり、様々な用途で使用されて

います。軽度難聴者で会議などで聞き取りにくい時にだけ使う方、中等度難聴者で外出するときにだけ使う方、高度難聴者で一日中使う必要がある方など、使用する環境や聴力によっても使用する補聴器は違います。補聴器は市販されていますので誰でも簡単に購入できますが、補聴器を購入する前には耳鼻咽喉科の受診をおすすめします。

〈難聴の診断および治療〉

難聴には様々な原因があります。その中に耳垢や中耳炎など、処置や治療によって難聴が治るもの、真珠腫性中耳炎や中耳・外耳腫瘍（癌）などの特殊な炎症や腫瘍で放置しておくとな難聴の増悪だけではなく時として命を脅かすようなものもあります。したがって、補聴器を使用する前には、どういった疾患により難聴になっているのか、その原因を把握することがとても重要

です。これらの診断は耳鼻咽喉科医にしか行えません。

〈聞こえにあった補聴器〉

聞こえや聞き取りの程度は人それぞれであり、個々にあった補聴器を合わせることもとても重要です。補聴器の選別をはじめ補聴器適合検査をもとにした調整（フィッティング）がうまくいかないと、不快な音が聞こえたり、響いたり、かえってうるさく感じたりすることがあります。満足のいく補聴器にするためには、耳鼻咽喉科で聴力検査や補聴器適合検査を行い、こまめに調整していくことが重要です。



様々なタイプの補聴器

〈補聴器専門外来〉

補聴器を安心して購入し、活用していただくために、当院では専門の補聴器外来を設置しています。防音室と補聴器適合機器が完備され、提携する認定補聴器専門店の認定補聴器技能者が、補聴器の調整を行います。



防音室での補聴器適合検査

補聴器外来では調整した補聴器を1〜2ヶ月ほど貸出し、問題点と使用感を確認してから購入するか検討していただきます。また、新規購入者だけでなく、すでに補聴器を購入したもののうまく使えない方への補聴器相談も行っています。お気軽にご相談下さい。

■北信地方で唯一 めまい相談医

めまいの6〜7割は耳が原因とされ、代表的なものにメニエール病、前庭神経炎、良性発作性頭位めまい症、突発性難聴（めまいを伴う）などがあります。同じめまいでも治療法、経過、予防が異なります。当院では北信地方で唯一の日本めまい平衡医学会認定「めまい相談医」のもと、丁寧な診療を行っております。めまいの診断・治療はできるだけ早期（めまいが起こっている時）に行うことが重要です。まれに命に関わるめまいも存在するため、めまいが起きたら早めに受診してください。

また、メニエール病についてはMRIによる診断を行っています。これはメニエール病の新しい診断法で、高性能なMRIを必要とすることはもとより、耳鼻いんこう科医の特殊な処置が必要とされ、検査を行える施設は限られています。長野県内では当院と信州大学附属病院のみとなっています。



3.0 テスラMRI装置

■慢性副鼻腔炎

慢性副鼻腔炎（蓄膿症）は副鼻腔（顔や頭の骨の中に形成された空洞）の粘膜が腫れたり、空洞に膿がたまり長期化（慢性化）する病気です。鼻茸（鼻ポリープ）ができることもありま

す。症状は鼻閉や鼻汁が主ですが、頭痛や咳など、鼻とは無関係に思われる症状が生じることもあります。多くは細菌による炎症ですが、真菌（カビ）の場合もあり副鼻腔真菌症と呼ばれます。空気中の真菌の胞子が副鼻腔内に入り炎症を起こす病気で、真菌塊（カビの塊）を形成することが多いです。

慢性副鼻腔炎の治療は薬物治療が基本で抗生剤や去痰薬などを内服します。これらの内服治療を2、3ヶ月継続しても改善しない場合に手術の適応となります。

一方、真菌症などの特殊な副鼻腔炎は抗生剤が効かないだけでなく、真菌が他の部位に広がり失明などの視力障害や命に関わる場合があるので、早期の手術が望ましいとされています。

当科では副鼻腔炎の手術にはナビゲーション機器を使用し、安全かつ正確な手術を行っております。また術後の処置においては従来のガーゼによる処置ではなく、新しい素材（特殊な綿）を用いることで術後出血および疼痛を減らす工夫をしております。



ナビゲーション機器を使用した手術（上）と特殊な綿（ソープサン）（右）

■アレルギー性鼻炎

当科では、抗アレルギー薬、点鼻薬など従来の治療法に加え、舌下免疫療法という新しい免疫療法を取り入れています。免疫療法とはアレルギー性鼻炎の治療の一つで、アレルゲン（アレルギーの原因）を少量から投与し、ゆっくり量を増やしていくことで体を慣らしていく（体質を変えていく）治療法です。現在、スギ花粉症、ダニのアレルギー性鼻炎が保険適用となっております。

アレルゲンを含む錠剤（または液剤）を舌下（舌の裏）に置き、1または2分後に飲み込む簡単な方法です。1日1回、2年間は毎日継続することが必要ですが、自宅でも簡単にでき、何度も診察に来る必要がありません（病院だより第99号参照）。

当科ではこれら以外にも睡眠時無呼吸症候群や耳鳴症、嚥下機能障害などにも力を入れて取り組んでおります。お困りの際はご相談ください。

（耳鼻咽喉科部長 福岡久邦）